

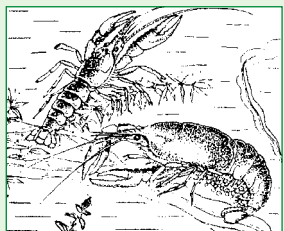


# 水の中を<sup>さぐ</sup>探る

## (その4) 水中の生き物

水の中にも、いろいろな動物や植物が生活しています。その他にも昆虫やエビなどの仲間も、川やため池など水のあるところで生息しています。体長の小さい生物もありますが、体のつくりや生活のようすを、<sup>りくじょう</sup>陸上の生きものどくらべてみましょう。

■**アキアカネの産卵とヤゴ** <sup>さんらん</sup>飛びながら腹の先端で、水面をたたくようにして産卵します。このようすを見て、トンボは腹の先で水を飲むと思っている人もいます。産卵は10月下旬<sup>げじゆん</sup>～11月に行われ、卵のままで冬を越します。幼虫<sup>ようちゆう</sup>はヤゴと呼ばれ、水の中でボウフラや稚魚<sup>ちぎょ</sup>を捕らえて食べます。



■**アメリカザリガニ** <sup>たいしやう</sup>大正10年に食用ガエル（ウシガエル）の餌<sup>えさ</sup>として、アメリカから輸入<sup>ゆにゆう</sup>したものが日本各地に広がりました。雌<sup>めす</sup>は5月になると、腹にたくさんの卵を抱えています。卵がふ化すると小さな赤ちゃんが水中に飛び出しますが、危険<sup>きけん</sup>が迫ると素早くお母さんの腹の下<sup>もくこ</sup>に潜り込んでしまいます。

■**カブトエビ** <sup>かせきさんようちゆう</sup>化石の三葉虫やカブトガニに似た体長2～3cmの小さな動物で、6月に田植えの終わった水田に現れます。このほどの命で、水中を激しく泳ぎながら草の芽や種<sup>めたね</sup>を食べる昔から「草取り虫」と呼ばれ、カブトエビが多い年は豊年<sup>ほうねん</sup>になるといわれ、別名「豊年エビ」とも呼ばれています。



■**ゲンゴロウ** <sup>せいこんち</sup>小さな魚や小動物を食べる肉食性の水生昆虫で、<sup>かたはね</sup>固い羽の下に空気をたくわえて水中にもぐります。



■**タニシ** <sup>ま</sup>食用となる巻き貝ですが、農薬で少なくなりました。



タニシは春から秋にかけて、卵ではなく小さな貝がいきなり産まれてきますので観察してみましょう。